



伊那市の歓迎に合唱で応える東ティモールの生徒たち(6日夕、伊那市役所)

来日中の東ティモールの高校生10人が6日、伊那市を訪れた。市内の農家で2泊して高遠中学校で交流するほか、企業訪問やそば打ちなど伊那の産業、文化に触れる。2020年東京五輪、パラリンピックで同市は東ティモールのホストタウンに登録されるなど交流があり、早速受け入れ農家からもてなしを受けた生徒たちは「住んでいる皆さんとの温かさを感じる。五輪で訪れる東ティモール国民もとても喜ぶと思う」と話した。

3年のクラウディア・アブリリアさん(18)は「日本はとても技術力が進んでいる」と話し、2年のボスコ・グテスさん(17)は「今までホタルでの生活だったが、伊那の農家で日本の本当の暮らしが味わえるのが楽しみ」と目を細めた。

(勝村誠之)

伊那の暮らし 楽しみ

東ティモールから高校生

農家や中学校で交流へ

この日は市役所で一行を歓迎するセレモニーがあり、白鳥孝市長は伊那市の産業などを紹介。「伊那の冬を楽しんでいいって」とあいさつした。同行した同国ヌノ・モニズ・アルベス臨時代理大使は「東ティモールの現地語で『いな』は『母親』を意味する言葉。私たちの国のお母さんとして、五輪のホストタウン、さらには農家民宿も受け入れいただきありがとうございます」と感謝。生徒たちは母国で親しまれる歌を全員で合唱し、歓迎に応えた。

今回の来日は東ティモールに学生をボランティアで派遣している東京都町田市のセレジオ工業高等専門学校が文部科学省外郭団体の招へいプログラムを活用して実施。伊那市高遠町出身で元・駐東ティモール特命全権大使の北原巖男さん(70)＝東京都＝が関わり、五輪ホストタウンの伊那市を訪れるに至った。

10人は東ティモールの次代を担う工業高校の生徒たちで、3日～11日までの滞在期間中は日本のものづくりの現場などに触れている。伊那市でも伊那食品工業を訪れて理解を深める。